

| 第22回横浜市都市美対策審議会政策検討部会議事録 |  |
|--------------------------|--|
| 議 題                      | 議事1 夜間景観のあり方検討について（審議）<br>議事2 創造的イルミネーション事業令和2年度の実験イベントについて（報告）  |
| 日 時                      | 令和2年10月8日（木）午前10時から午前11時30分まで  |
| 開催場所                     | 一般社団法人横浜みなとみらい21 プレゼンテーションルーム  |
| 出席委員<br>（敬称略）            | 西村幸夫、国吉直行、真田純子、鈴木智恵子、関和明   |
| 欠席委員<br>（敬称略）            | 大西晴之、中島美紅  |
| 出席した書記                   | 榊原 純（都市整備局地域まちづくり部長）<br>梶山祐実（都市整備局企画部都市デザイン室長）<br>吉田和重（都市整備局地域まちづくり部景観調整課長）  |
| 関係者                      | 議事1：石川 美沙希（都市整備局地域まちづくり部景観調整課担当係長）<br>山田 渚（都市整備局企画部都市デザイン室担当係長）<br>議事2：河本 一滴（文化観光局文化芸術創造都市推進部創造都市推進課担当課長）<br>安藤 準也（文化観光局文化芸術創造都市推進部創造都市推進課担当係長）  |
| 開催形態                     | 公開（傍聴者：0名）   |
| 決定事項                     | 議事1：本日の意見を踏まえ、引き続き検討を進めること。  |
| 議 事                      | <p>1 開 会</p> <p>（西村部会長）<br/>それでは、まず会議の公開について、事務局から説明をお願いしたいと思います。</p> <p>（梶山書記）<br/>本日の部会については、横浜市の保有する情報の公開に関する条例第31条に基づき公開といたします。</p> <p>（西村部会長）</p> <p>それでは、議事に入りたいと思います。まず1番目、夜間景観のあり方検討についてということで、事務局から説明をお願いしたいと思います。</p> <p>議事1について、事務局及び関係局から説明を行った。</p> <p>（西村部会長）<br/>（県庁のライトアップについて）これは誰が主催しているのですか。</p> <p>（石川係長）<br/>ものによるのですが、県の担当部局であったり、場合によっては市役所の中の部局であったり、外の機関からというケースもあります。</p> <p>（西村部会長）<br/>ありがとうございます。この件に関しては、今日欠席の2人の委員にコメントを頂いているのですね。大西委員と中島委員、それを紹介してください。</p> <p>（梶山書記）<br/>本案件については、お二人から特にご意見はございませんでした。</p> <p>（西村部会長）<br/>そうですか。ということで、フリーディスカッションになると何となくあれですが、ちょっとシナリオとは違いますけれども、次は今年度の創造的イルミネーション事業ですよね。これも関連しているので、申し訳ありませんがそこも一応説明してもらって、その後でこうしたこと全体に関してコメントを頂いたほうがコメントしやすいと思いますので、いいですか。ちょっと申し訳ないですが、順番を変えて、説明者も変わっていただいて、引き続きをお願いします。</p> <p>議事2について、事務局及び関係局から説明を行った。</p> |

(西村部会長)

ありがとうございます。これに関して、欠席の委員からのコメントとか質問はありましたか。

(梶山書記)

こちらに関しましては、中島委員からご意見を頂きましたのでご説明させていただきます。中島委員から、今回の特別演出の頻度ですとか時間の変更、あと、参加施設を増やすことですとか、繊細な色使いでストーリー性を出すといったことについて、賛成ですというご意見を頂いております。昨年度は少し派手だということもあってギャップがあったと感じているということです。全体的なご意見として、横浜の夜景というものに外部の方はかなりロマンチックなものを求められている印象があるので、ディズニーランドだったり東京や大阪の夜景とは違うものが求められているのではないかと思います。その中で、先ほどの頻度のお話は基本的には賛成ということだったのですが、30分に1回だとリピーターが減ってしまったりというのもあり、例えば1日に1回だけとか週末限定とかで、色を交差させたり、音楽を使ったり、ウェブを活用したり、また、新しくプレミア演出があると面白いのではないかとご意見を頂いております。

それから、WebARで夜景を見るということについては、昨年度それを見ると実際の夜景が見えないということはそうでしたねということでしたが、ウェブ自体は今回コロナの中でかなり親しくなられた方もいるので、例えば夜景を見せるという手段ではなくて、回遊に合わせてクイズみたいなものをウェブで行う。事例としては、例えば海に向けてと、横浜港で一番よく捕れる魚は何かみたいな質問がクイズで答えが出てくるとか、回遊性を盛り上げる手法としてウェブというのは可能性があるのではないかとご意見を頂きました。

ランドマークのプロジェクションマッピングを前に見られたようですが、全般的なご意見として、非常に寒い時期にやるので、わざわざ時間を潰して来るというイベントでないと人に来てもらうのが難しいのではないかとご意見を頂きました。中島委員が3年前に緑化フェアでグランモールの光の木の演出を見られたらしいのですが、その演出では音も出たりとか、お子さんが結構集まっています、イメージ的にもロマンチックなイメージを持たれていたもので、繊細な色使いとかそういったことをちゃんとやっていくということは、今後、横浜の夜景について重要だと思いますというご意見を頂きました。

(西村部会長)

随分細かい意見でよかったです。

それでは、ここから意見交換なのですが、確認です。今の創造的イルミネーション事業に関しては、事業者が決まっているのでやることも決まっているわけですよね。ですから、今さらこうしてくれとかあはしてくれと言ってもちょっと無理なので、来年度以降になるかもしれませんが、こちらに関してはいろいろ質問があればやっていただきたいということです。メインのところは(1)の夜間景観の考え方で、こんな感じの考え方でいいのかとか、こんな課題があるということでもいいのかと。それから、横浜らしさというのはどういう形でやるのかとか、ほかの都市との違いみたいなものをどういう戦略でやったらいいのかというところを中心に、いろいろコメントをいただきたいことが今日の趣旨ですので、自由にご発言いただければと思います。いかがでしょうか。どうぞ。

(真田委員)

ハレとケに分けて演出を変えろというか、コントロールしていくというのはいいことかと思えます。ハレの部分に関しては資料2のほうだと思うのですが、それは多分、事業者とかもいる話なのでなるべく自由にやってもらうというか、ハレだったらハレとしてやってもらったほうが、規制をかけるよりはよりいいものができていくのかなと思います。なので、ハレというのをどのように設定するかというのを考えるのが重要になってくるのではないかと思います。それを考えるときに、ハレが日常になってしまっただけでは困りますので、1年の中でどれぐらいハレの期間をつくるかとか、そういうことを考えていく必要があると思うのですが、それは多分場所によって、みなとみらいの中央地区であればハレの日が多くてもいいけれども、関内地区だったりそういう場所ではなるべく少なくするというような感じだったり、場所によってハレとケのバランスというのが違ってくるのかなと思います。

あと、ケの日常としては、これまで、前にいた景観審査部会でやったバス停のサイネージとか、マップの裏側のサイネージとか、場所によらず全体的にそれやりますみたいな感じになっていて、本当にいいのかというのがあります。あれは私はまだ根に持っているのですが、そういうところをちゃんとコントロールできるようにしていくべきかと。やはりイベントを引き立たせるためにも日常はもっとよく、落ち着いた感じにしていけないといけないのではないかと思います。

あともう一つ、夜暗いところがあってという話です。夜歩いて楽しくなるというのは、日常のほうなのですが、早くに閉まるお店だったり銀行だったりというところが、シャッターを下ろしてしまうと結構歩いていてもつまらないし、危なくなってしまうりするので、透過性のあるシャッターとかで中のディスプレイが見えたり、閉まった後もちゃんと街に貢献するような建物のつくり方というか、シャッターのあり方みたいなものもやっていくといいかと思いました。以上です。

(西村部会長)

ありがとうございます。ケは抑制的に、ハレはもう少し自由にしてもいいのではないかということ、それにしても期間みたいなものはきちんと場所ごとに考えるべきではないかというご意見です。

ほかはいかがでしょうか。どうぞ、鈴木委員、お願いします。

(鈴木委員)

ナイトタイムエコノミーの推進ということで、こういう夜間景観も考えていこうということですが、ハレとケのお話が今ありました。日常でしたら、普通に横浜の市民が見る範囲だと、さつきロマンチックとおっしゃっていましたが、エレガントさが必要で、そのエレガントさというのは、例えば横浜は歴史的建造物のライトアップから始まっていますよね。それはもう国吉さんがよくご存じというか最初にやられたほうですが、ああいうエレガントさと、ハレのときの華やかさの対比というか、共存という部分もあるかもしれません。それで、横浜というのはこういう夜間景観を演出していますということでどちらも捨てがたいので、その辺の分け方と共存と、ちょっと矛盾するのですが、それをよく考えてやっていただきたいということです。横浜らしい光景観のあり方でないと、はっきり言ってほかの都市と同じようだったら何にもならないので、そのところがすごく大事だと思うのです。

それと、時間です。例えば創造的イルミネーションは去年9時5分までやっているということで、冬の時期の9時5分はかなり寒いし、見た後にどこかで休みたいとか、当然そういう要求も出てくるわけです。そういうときに、アフターというか同時でもいいのですけれども、例えばちょっとコーヒーを飲めるとか、そういうのもちゃんと連携してもらわないと。それなりに楽しいのですが、去年結構寒かったんで、ただ寒いところで30分も見ていると、若い方はいいかもしれませんが、年寄りには震え上がりますよね。だから、その辺をもうちょっとよく考えていただきたいということです。

あと、光の色の調整というのはよく分からないのですが、去年がちょっと派手だったからかもしれませんが、ちょっと気持ち悪いような光の配合というのも私は感じました。あとはいろいろな組合せですよ。色の組合せというのはよく考えていただいて、例えばオリンピックだからといってそのとおりにやると何か下品なふうになってしまうとか、取り合わせをよく考えてもらわないと、せっかくやってもただ色がその辺に蔓延しているみたいな感じになってしまって、かえって都市の品格を損なってしまうのではないかと思います。それは専門のそういう方がいらっしゃるのしょうから、よくよく細かく検討していただきたいです。外の広いところでやるのですから、光が及ぼす影響は結構大きいのです。あと、目にそんなにいいことばかりではないのではないかと、ちょっと去年思いました。結構すごい刺激なので、刺激が多過ぎるのがいいのかどうかということもよく検討していただきたいと思います。

(西村部会長)

なるほど。自由とはいっても、品格がなくなってしまったら意味がないので、きちんとしたチェックとのバランスがどうあるべきかというのが課題になりますよね。ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。では、関先生。

(関委員)

審議のほうの夜間景観のあり方というのをこの時点で改めて考え直そうかという中で、先ほど真田委員も鈴木委員もおっしゃられましたが、ハレとケという区分をすると。イベントのときというのはいわばお祭りです。テンポラルですから、何か違うエキサイティングなものが出るというのはいいのです。この写真では、後ろのランドマークタワーとかクイーンズスクエアとかみなとみらいの中央地区ですが、ふだん目にしている夜の風景がどうあるべきかというのがまさにベースとして、横浜の夜景の横浜らしいもので、例えば香港とも違うし、ニューヨークとも違うし、もちろん大阪とも違う。僕は神戸に住んでいたことがあります。神戸の夜景というのは、丘があるので上から俯瞰する、見下ろす視点で香港と似たようなところがあるのです。横浜は大体フラットなので地上に立っている人間の視線から見えていく、フラットと言うとあれですが、そういう見え方をする夜景なので、特徴を出すのはなかなか難しいかもしれませんね。ですが、それを言葉で言えば、落ち着きのあるとか、エレガントであるとか、多少ロマンチックであるとか、いしだあゆみの歌のあれで誰でも知っているよう

な雰囲気、ちょっとレトロスペクティブなところがあるという。どんどん新しいものが来るのでそれだけでは済まないのですが、伝統と言ったら何ですけれども、既存のものが徐々に時間をかけて積み重なってきた夜間の風景のあり方というものの価値をいま一度見直して、その延長で新しいものが少しずつ加わっていくという、そういう進め方をしていったらいいのではないかと思います。

都心臨海部ですから、みなとみらい21の中央地区と新港地区、それと関内という3つのエリアに分かれています。この図だけ見ると、スカイラインの強調といっても夜間のスカイラインって何なのかなど。あるいは高層ビル、超高層ビルの夜に見えるものというのをもう少し突っ込んで、これは大掛かりなことになるかもしれませんが、光っている面のボリューム感とか群として、建物の輪郭はなくなるけれども窓だけが点のようにあるとか、階層ごとにストライプ状に光が消えたりついたりしているとか、そういうことの魅力みたいなものを中央地区ではもう少し考えたいかと思っています。関内地区はやはり歴史的建造物ということです。あと、イベントの会場になるみなとみらい新港地区ですが、ここはちょっとまだ、赤レンガ倉庫だけがあって商業ビルとか高層のものはないですけれども、そこに建っている建物の性格が関内とも中央地区とも違うので、そこにケとしての夜間景観をどのように定着させるかというのが課題ではないかと思いました。1番目の審議事項については大体そんな意見です。イベントのほうについては後でいろいろあると思います。

(西村部会長)

ありがとうございます。様々な意見を頂きました。国吉委員、お願いいたします。

(国吉委員)

どちらがハレでどちらがケかと、そういう関係でもないとは思っています。日常と非日常とか、そういう表現もあるかもしれません。今回の創造的イルミネーションなど、実験的、イベント的にやるものはしばらくいろいろ試みていこうということなので、それはそれで昨年度から少し改善してということにトライしているので、意見があったらいいのですが、様子を見ていく方向でいいかと思うのです。まずは全体の夜間景観をどういうふうに持っていくかというのがこの議論でして、そこにそういうイベントがどう絡むかということだと思います。

横浜らしい景観をどうするかと考えたときに、都市の構造をちゃんと見せるということが基本的に大事だと思うのです。内港を囲んでみなとみらいがあったり、関内があったり、新港地区があったり、ベイブリッジがあったり、こういった囲まれている構造の街だということ。そこに先ほどおっしゃったような歴史的建造物があれば、現代的なみなとみらいの街並みがあり、そういうものが非常にうまくミックスしているというのを見せるのが横浜の見せ方だし、それからもう一つは、公共施設の演出です。公共施設の演出についても、まだ不十分だと思うのですが、いろいろな橋の光の演出とかがありますけれども、例えば私が伺ったのは、汽車道の照明を、普通の街灯ではなくて手すりや柱と光を埋め込んで、上から俯瞰したときに光のドットが続くように演出したわけです。そういうふうな水際線の魅力をいろいろなところから見せていくというような公共空間の演出というのは、まだまだ不足していると思うのです。ですから、それを満遍なくやるのではなくて、どこの部分を意図的に見せていくかということが一つあって、そういう見せ方もこれまでの取組では不十分でした。水際線を歩くというのであれば歩くプロムナード、例えばキング軸というのがだんだん完成してきたわけですが、そこを楽しく歩けるように誘導できるような演出とか、その構造の中で強調したいもの、重視しているもの、歴史的建造物の演出でも満遍なく光を当てるのではなく、最近は派手ですけれども、昔の石井幹子さんの流儀ですと、その建物の特徴あるところ、尖塔部分とかに当てる。全部に満遍なく当てると面白くないわけです。ですから、街の構造の特徴あるところを意図的に見せるような工夫、何を重視すべきかというのがあって、それを公共施設の整備の中でも生かしていきたい、生かしてほしいという感じがするわけです。

一方で今、アフターコロナとかウィズコロナの時代に、アウトドアで食事をしましよとか、そういう時代で、都市の中のアウトドアの空間をできるだけ楽しく増やしていきましょというのがあります。日常的にそういう輪が、前の店の人がさっと椅子を持ち出せばやれるような場所がいろいろな街に幾つか用意されるとか、そういうことも平常時につくっておくとか、そんな都市空間のつくり方の流れみたいなものと沿った戦略というのを一方で考えていって、それに官民の事業が少し絡んでくる、そういうことをぜひ考えていただきたいと思います。

一方で、こういった実験とか創造的イルミネーションというのは、別の形で都市を見せるというやり方もあるし、あるいは、今言ったところをそのときだけでもっと強調して見せるとか、別の形で強調して見せるとか、連動する形もあっていいかもしれません。全く関係なくイベントをやるのがあってもいいし、関連させながらやる部分があってもいいし、そういう役割を少し考えながらやっていく

と、ちょっと面白くなるかなと。

私が昔からぜひやりたかったのは、大黒ふ頭の反対側です。一回、倉庫にば一っと光を当てたことがあるのです。つまり内港、囲まれた港というのが、囲われ感がまだ出ていないわけです。そういうのが日常的に無理であれば非日常的にやっていって、このイベントが将来を誘導していくようにつながっていけばいいなど。そんな感じで、日常的なものや非日常的なものがそういうところで重なり合うことがあってもいいという感じがしました。

(西村部会長)

ありがとうございました。日常的な都市の構造をきちんと見せるということと、そこを公共施設もうまくやるのではないかと。それと非日常との戦略のあり方も多様ではないかというお話ですね。

あとワンラウンドお話を伺いたいと思うのですが、今日は割とフリーディスカッションみたいなので、私も一言言わせていただきます。今、お話を伺っていて私が思ったのは、ハレとケということで分かったような気がしているけれども、実はもうちょっときちんと両方が何をやらないといけないうかということや突き詰めたほうがいいのではないかという感じがしました。というのは、ハレとケということで言うと日常と非日常なのでしょうけれども、それは人によっても違うし、いろいろなことがあって内港地域に来ること自体がハレの人もいるわけだから、その意味ではもう少しきちんと。そして、それは例えば今、国吉さんがおっしゃったように構造を見せるというような、そこにもともとあるものと、そこに何か加えるようなものですね。例えば、図と地なのかもしれないし、日常と非日常とか、伝統的にもともとからあるようなものと、そこに非常に革新的に何か付け加えるものとか、不易と流行とか、いろいろな条件があり得ると思うのです。そのところをきちんと議論して、今までハレと言っていたものが一体どういうふうか、今のお話のように今までであったものの構造をもっと強化するというのも一つの延長線上にあるかもしれないし、全く新しい技術が出てきて今までにないことをやれるとすれば、それはまさにハレなのです。今、動いている様々なことを、技術的な問題も含めてどのように2つに分けて理解して、それをどのように精査していくのか。特に重要なのは、ベースとなる部分をどうするのかということ、それが割とはっきりしていると、そこからいわゆるハレということに関しては見えてくるのかなという感じがします。

それともう一つ思ったのは、今、明かりのことを言っているけれども、明かりだけでいいのかと。つまり、アクティビティーがあればそこから明かりが生まれるので、先ほど言ったように、中のアクティビティーを外に見せれば窓から光が出るわけです。ですから、その意味で言うと、明かりだけの議論にもうちょっとプラス周りに、先ほどの外に何かを置くとか外のカフェとか、そういうものはおのずと明かりを伴うわけなので、それをどのように考えるか。それは関係ないというのもありかもしれませんが、どういう形でうまくこの中に入れ込めるかということが大きいかと思いました。

それともう一つ、ここだけでいいのかという感じがあるわけです。ほかのところはギンギンギラギラでいいの？という感じもあるのです。港が横浜らしいからそこに注力するんだというのは理屈で分かるけれども、それ以外はフリーでいいのかという話もありますよね。日常的なところは規制をして、真田委員がおっしゃったように、もうちょっと抑えることでそうでないところを浮き立たせるのかとか、なぜここだけでいいのかみたいな理屈も一つには説明しないといけないうかと思いつきながら思いました。

今がワンラウンド目です。これでそれぞれの委員が発言してくださったので、その意見を踏まえながらセカンドラウンドへどうぞ。

(真田委員)

私が先ほどの皆さんの意見を聞きながら思ったのは、国吉委員がおっしゃったような、水際線を際立たせるとか、道路軸を際立たせるとか、そういう公としてやることと、民間の店をどうするのかとか、私のほうの、プライベートのライトアップとか光環境についていかにコントロールするかという話と、恐らく2つやらなければいけないのではないかと思いました。

あと、地形を際立たせるとか水際線を際立たせるとかという話は、まさに横浜らしさということになると思うのです。あとは歴史的建造物を強調するというのも横浜らしさです。先ほど資料2のイベントのほうで、横浜らしさを表す6つのキーワードとっていろいろな色が出ている説明を聞いているときにすごく違和感があったのですが、そんなことで横浜らしさを表現できるのかなと思いました。イベントをするときには、方便でもそういうことをやらなければいけないからそれでいいのですが、本当は地形を際立たせたりとか、横浜にしかないようなものをちゃんと強調するということが横浜らしさであって、多分色の選択というか、こういう色を使ったら横浜らしさという話ではないのではな

いかと思いました。

あと、活動との連動というのはまさにそうだと思います。こういうふうにしたら美しいというだけではなくて、さっき私が言った透過性のあるシャッターとかも夜でもウインドーショッピングだけはできるとか、先ほど国吉委員が言われたオープンカフェみたいところで光とともに活動が見えるとか、あとは、そこに座って道路の向かい側の建物を見るとか、全体的にすごく良くなっていくのかなと思うので、単純に、いわゆる狭い意味での景観という話ではない、活動も含めたことを考えていく必要があるのかなと思いました。

あともう一つ、これで最後ですが、屋外広告物との切り分けとか役割分担というのは難しいですけども、絶対考えていかないといけないことです。そういうことを考えられるようになると、あそこの地域だけではなくて横浜市全体の話としても出てくるかと思います。最近、個人でもプロジェクションマッピングとか、私の大学の近くでも最近できた歯医者さんが路面にロゴを映しているのが2か所あって、そのうちの1か所は最初、道路上にあったのです。さすがに怒られたらしくて、今は敷地内に入っているのですが、大きい施設でなくても手軽にできるようになってきているのだと思います。そういうところは今後いろいろ問題が出てくると思うので、屋外広告物条例でどのようにするのかとか、考えていく必要があるのかなと思いました。

(西村部会長)

ありがとうございました。いろいろ頂きました。

ほかはどうですか。どうぞ、鈴木委員。

(鈴木委員)

例えば創造的イルミネーションというのは大きな夜間景観のイベントですが、こういう大きなイベントの場合は、ベイブリッジにスカイウォークというのがありますけれども、ああいう海側からの景観を考えてみようということも課題としてあるのです。そういうのを見てみるということはかなり横浜らしい見方で、そうすると、そこからいろいろな課題も見えてくると思います。国吉さんがおっしゃったように大黒ふ頭のところを光で演出したいとか、個々の建物は割と小さいですが、光というのはもっと大きな演出もできるわけで、そんなに派手にならなくても大きな演出ができると思うのです。そういう見せ方もあるし、見方もあるのではないかと思います。

(西村部会長)

なるほど。どこかから見た何とかとか物語性みたいなものが見えてくると、やっていることの意図が明確になるという話でした。

ほかはどうですか。どうぞ。

(関委員)

ちょっと細かいことになります。この創造的イルミネーションのイベントに関連するのかもしれませんが、日常的な夜の風景の中の光は色合いがすごく大事で、最近LEDでいろいろなカラーが可能になってきています。それを組み合わせてというのでどんどん進んでいるのですが、昔はいわゆる蛍光灯的なビルのファサードみたいな白っぽいのと、あとはナトリウムランプというのですか、オレンジ色、朱色のやつというのがあって、大体地上レベルの道路、あるいは1階のお店とかは比較的オレンジ系とか、昔の白熱電灯系のものが多かったような気がするのです。それは随分トレンドで変わってきていて、刺激が強過ぎるし、LEDの光源の強度というのは独特ではないかと感じています。そういうところも、テクノロジーの問題と関連するのかもしれませんが、今までどういうふうに限定してきたのか知りませんが、逆にこういうイベントでやったときの結果の印象などをフィードバックして、少し種類みたいなものをある範囲でやりましようみたいな、多少バリエーションがあったとしても、あまり極端な幅を持たせることがいいのかどうかというのを検討したら、都市の夜の光の美しさみたいなものを、横浜はこうなんだみたいなものを収斂していけばいいと思いました。

あとイベントで、昨年度の結果をフィードバックしていろいろ変えられているのですが、昨年期待したのは、この写真にも出ていますけれども、インターコンチネンタルホテルの上から出ているサーチライトでした。ああいうのを、担当されたライゾマティクスさんのプロモーションビデオの映像を見ていたときに期待したのです。今年はもう少し強い光源を使うということですが、やるのであれば少し徹底して絞ってやってみると。でも、これは航空法か何かに引っかかるのですかね。そういうことが改善されるというのはいいいと思います。

あと、視点場を2か所にしたと。中央広場と大さん橋というのですが、人は多分訪れるときにいろいろ動くので、多分前回も、こういうイベントですと必ずスマホで写真を撮ってアップして、いろいろなところから見た、来られた方がいいなと思う風景を記録していると思うのです。その中で新しい

視点場というか、イベント期間の2つというのはいいのですが、当然そこだけではないので、動いて風景が変わっていく、あるいはこんなところからこんな見え方をしてみたいなことをまさに発見していくような、そういう機会になればいいかなと思っています。

もう一つ、音ですね。音の印象というのは、どうしても比較的電子音みたいなものが多いので、音とシンクロさせるときにサウンドの問題も工夫していただければと思います。環境は視覚だけではなくて五感でできていますので、そういうイベントとしてのグレードのアップを期待したいと思いました。以上です。

(西村部会長)

ありがとうございました。視点場の問題と音の問題、それから、特に非日常のものをやられたときに、後に検証するということですね。それでフィードバックして行って、次のときに備えるということ。非常に重要な戦略として、全体の中にも組み込めるのではないかと思います。

(国吉委員)

先ほどの話の延長になりますが、みなとみらい地区では単にスカイラインだけではなくて、最近では低層部のにぎわいを見せていこうという動きが、協議会全体としても相当あるわけです。広告物などについても少し緩やかにしようとか、そういうことです。その中でグランモールも再整備されましたし、今後キング軸などもどのように見せていくかというのは課題にしてほしいと思っています。日産のところを通過してグランモールに入ってくる、その先に52・53街区というか、このあたりで計画・工事がどんどん進んでおまして、その結節点に大きなシェルターがかかるような、セカンドレベルの広場ができて、その屋根に光が当たるような、そういう空間が誕生するわけです。先ほど申し上げましたが、これからは都市の中の人々がコミュニケーションを取る場というものをどんどんつくっていくというのが大事になってきますので、そういったことを民間の中でもできるだけ、空間としてもつくっていただき、光としても見せるということが必要かなと思っています。また、関内の路地のところなども、少し上から降ろすような光が使える装置とか、そういうものを要所要所につくっていくとか、そういう工夫などが逆に屋外の商業活動とかを誘致するかもしれないと思います。

また、大きな領域で言えば、昔、現在も生きているのですが、港の色彩計画というのをつくって、グレー1色の倉庫群とか工場群だと面白くないということで、倉庫にもう少し色を塗っていただこうと。ペイントでしようがないからペイブリッジの外側はブルー系で、ペイブリッジと大さん橋の間はグリーン系、その内側はイエロー系みたいな感じでやって、少し倉庫に面したところは斜めのストライプを入れるようなこともやってきたわけですが、光については必ずしもそういうことはなされていなかったわけです。ですから、この観光船とかそういうものは、今後も来ていただくことを期待しながら、入ってきたときに光の演出というのが、例えば川崎の工場夜景なども割とマニアが出てくるのですが、横浜だったらガントリークレーンを少し演出してあげるとか、横浜港の産業景観などもうまく光で演出しながら都市の中心部に迫っていくみたいな、光のドラマみたいなものができるといいなと。そんな長期的な空間ビジョンみたいなものも併せて出しながら、それと連動する光づくり、あるいは創造的イルミネーションの演出とかにトライしてもらおうとありがたいと思います。

(西村部会長)

地のほうもやるのがたくさんあるということですね。

2ラウンドやりましたが、事務局でこういうことを議論してもらいたいとか、もしくは何か、そう言われているけれども既に考えていますとかいろいろあると思うので、何かあれば、どうでしょう。

(梶山書記)

今日頂いたものを、これから私たちの検討の中の題材として全て生かしていきたいと思っているのですが、先ほど出た中で、既に行っているこれまでの夜間景観の中にも、例えば先ほど言った民間の商業施設とかで街を楽しむような誘導ですとか、そういったこともやっております。現状で何を強化していったほうがいいのかというところは、現状の計画とかと見比べながら、既に誘導しているところはかなりあると思いますので、そういう部分をこれから精査していきたいとは思っております。

あと、基本的にはやはり地の部分というか、日常のところをどういう考え方で整理していくかということと、それをどう非日常ですとかハレというものと連動させていくかという、役割みたいなものも非常に重要だというお話もありましたので、その関係性ですね。どういったものを日常でつくって行って、それとハレをどのようにつくっていくかというのを連動させていくかみたいなことも、新しい考え方としてはできれば取り入れていきたいと思っています。これから作業になりますので具体的なことはなかなか言えませんが、今日頂いたことを踏まえて今後の検討を進めていければと思っています。

(西村部会長)

ありがとうございます。何か閉めの言葉みたいになりましたが、もうちょっと時間があるのでもしあれば。

あと、私、質問があるのは、ここで言うハレというのも、ものによって大分違うじゃないですか。何か月間もライトアップしているのはハレ・非日常なのかとか、判断するのは微妙な感じもするのですが、その辺に関しては、どこがベースラインで、どこがそれを越えたところかというのをうまく線引きするようなイメージというのはあるのですか。それとも、今のところまだ、そこもこれから考えるという。

(梶山書記)

今、既にそういった期間の考え方を整理しているところもエリアによっては幾つかあります。例えば1週間とか1か月、3か月というので、それぞれの考え方が異なっているという整理をされているのもあるので、そういったことを基本にするというのもあると思いますが、例えば今回のイベントのように1日の中の何分間とか、そういった概念も出てきたりしていますので、どういうものを日常と呼んで、どういうものを非日常と呼ぶかというのは、かなりいろいろなパターンの整理をしていく必要があると思います。そこら辺を今後、整理していければとは思っています。

(西村部会長)

全体のご意見からすると、そういう形で2つに分けて、一つはかなりベースラインとしてきちんと戦略を持って、でもあまり派手にならないように、官民それぞれがしっかりやっていくと。非日常の部分に関しては、それなりに自由に実験的なことをやってもいいけれども、きちんと後から検証できるようにしてもらいたい。ただ、何でも自由と言って品がないのはまずいみたいなので、皆さん、ロマンチックとか、そういう横浜の港としてのイメージというのがあるので、そこから外れないようなことを、自由と言いながらチェックするとすれば一体何ができるのかみたいな話ですよね。そのあたりは工夫のしどころかと、ご意見を伺いながら思いました。

(国吉委員)

いろいろなお話でほとんど出ているのですが、先ほどからいろいろな方もおっしゃっているように、ベースのところをやはりきちんと、横浜の骨格を見せるというのを、まずはきちんとやっておかないと、演出だけになってしまうとほかの街と似てくるので、これとうまくかみ合わせながらということが大事だと。

それから、私はリヨンにも行ったのですが、リヨンの日常は真っ暗です。それで、歴史的建造物がくっついてきて、それがシンボリックに見えていて、リヨンの夜のすごさみたいなものが分かりました。それに年末はすごい実験的イベントがわっと、それこそ世界中からやってくるわけで、両方がリヨンのよさだと思うのです。だから、そういう日常のというか、静かな中にシンボリックな施設がぼんとあるところを好む人もいるし、わっと年末に世界中から人が来て、その中でにぎわうというのもリヨンの名物になっているわけです。両方がうまい関係で、そのようなメリハリをちゃんと持って、日常のよさも大事にしていくということ。それを今までやってきたのですが、30年ぐらい前、ライトアップを始めた頃は新鮮だったものが、多分新鮮になってきていないので、骨格のところにもう少しこを入れて、演出ももう少し面白くしていくというのが欠けているのだらうと思います。その辺はどこの局がやるのか知りませんが、きちんと見ていったほうがいいのかと思います。

(西村部会長)

ありがとうございます。

(真田委員)

先ほどのリヨンの話で思い出したのですが、あれはクリスマスマーケットですよ。私はその時期に行ったことがないのですが、そのときにすごく中心部が派手になる。それを考えると、ライトアップだけではなくて、マーケットがあったりして夜の活動を楽しめるということが結構重要です。先ほどのイベントのことを聞きながら、私はあまりこういうのに行かないタイプなのでどういうふうを楽しむのかが気になって、寒い中で震えながらただ光の演出を見るというのは、体験としては相当貧しいというか、もうちょっと豊かな都市の生活というか、体験の仕方というのがあると思うのです。なので、ただ見るだけというのが本当に楽しいのかなという疑問が正直なところありまして、そういうのを楽しめるような年代の人もいると思うのですが、もうちょっと豊かな、横浜の格調の高い都市としての楽しみ方というのは何なのかということも考えてもいいかと思います。

(西村部会長)

そうですね。役所の縦割りがそのまま光のイベントと産業振興とかになっているという感じがする



のです。確かに総合的に考えて、その中に光が位置づくということですかね。

どうぞ、関委員、お願いします。

(関委員)

先ほどの都市の構造を夜の風景、夜間景観の演出でクリアにさせるのが重要だというので、そのとおりだと思うのです。これはちょっと個人の体験で、以前もお話したことがあるかもしれませんが、大昔、初めてのニューヨークのマンハッタンは冬でした。最初なのでどうしてもエンパイアステートビルでしたが、展望台に上って下を見下ろしたときに、夜ですから高層ビルの管体そのものは真っ暗なのです。唯一見えるのが地上の道路と、道路に面してショップがあって、そこが夜でも光を照らしていた。オレンジ色の光でしたが、ニューヨークのグリッドのパターンがきれいに見えて、なおかつ冬はスチームの水蒸気が歩道と車道の間か何かから噴き出していて、その辺がぼやっとかすむのです。その蒸気にまたオレンジ色の光が反映して、街全体が空中に浮いているみたいな、雲の上の都市みたいに見えたのです。それはやはりすごいなと思って、これがニューヨークのマンハッタン地区にしかない夜間景観かと思った記憶があるのです。横浜の場合は、水辺の映り込みというのがたまたまあって、ランドマークタワーの近く、万国橋辺りを通ると、水に映って反転している風景みたいなものが非常に魅力的なので、そういうのを強調していくみたいな。ある戦略というか、インナーハーバーのサークルが夜はクリアになるみたいな。夜そのものはハレとケで言えばハレになることもあるかもしれませんが、昼間の慌ただしさから解放されて、そのときに横浜の風景、港の周りがくっきりとリング状になっているみたいな、昼間見えなかった風景が現出するという。ニューヨークのマンハッタンの場合は意図的にやっているわけではなくてそうなったわけですが、おのずと都市が持っている今の環境的な特徴が、光というものをちょっと加えるだけである意味がらっと変わるみたいな、それはすごくケとハレの典型みたいなものですね。意外とドラマチックにできるのではないかと。そういう工夫もしていただければと付け加えさせていただきます。

(西村部会長)

ありがとうございます。インナーハーバーの水辺の映り込みというのをうまく戦略的に使ったり、視点場ということが重要になってくるのではないかとということです。

どうぞ、鈴木委員。

(鈴木委員)

今、光の演出ということでは、とにかく強いほうへ、より華やかにというふうに、横浜だけではなく時代的にも進んでいます。ヨーロッパの古い都市などは、どちらかというと夜はシックな、光を抑えたような感じでその美しさを際立たせているというところがあります。横浜とか関内とかもそうやってほしいと思っていたのですが、でも、歴史的建造物が民間のものはほぼ全滅で、今残っているものはかるうじて公共のものばかりになってしまっています。公共のものも、要するにそのものをアイストップみたいな形にして周囲の建物が建っていないから、今、横浜市の歴史的建造物の景観はそういうふうになっていると思うのです。だから、それだけをきれいに浮き上がらせるということはなかなか難しくなっていると思うのです。こういうふうに派手な方向に行くというのも一つ、それも時代の要請もあってありですけども、例えば横浜はいろいろな西洋の技術が幕末以降入ってきたところで、光というのもその一つですよね。ガス灯という形で入ってきたのです。ガス灯というのはすごく弱い光で、今の人が見るとついていないのかついていないのか分からないぐらい弱い光なのですが、それでも当時の人は非常に明るいと思ったという。だから、例えば極端な話ですが、イベントも横浜の開港にちなんで当時の暗いようなところを演出してみるとか、部分的に光を落としてしまって、当時のことを、横浜の今までの発展までつなげるような形の、そんなストーリー性のある光の演出というものもあると思うのです。そうすると、それは本当に開港都市横浜の現在に至るまでの原点から、今ここまで来ましたみたいな形での見せ方もあると思うので、そういうことも頭の隅に入れて、ただハレとケということだけではなくて、他の都市に負けないように派手な演出をするというだけでなく、歴史性を重んじたような考え方もできるのではないかと思います。

(西村部会長)

非日常も、例えばガス灯を実感できるようなストーリーを持ったようなとか、そういうイベントの性格も考えられるのではないかと。そこのところをあまりフリーにしなくても、少なくともそういうものも方向性の一つとして挙げるのもいいのではないかと思います。

よろしいですか。いろいろ示唆に富む意見も出たので、特にまとめなくてもいいような気もしますが、いいですか。少なくともベースラインとなるところは割と落ち着いていて、都市の構造が見えて、歴史が感じられるものがベースになって、その上にいろいろな実験的なものがあると。た

|      |  |
|------|--|
|      | <p>だ、それはきちんと検証されなければいけないし、実験といってもひょっとしたら何でもいいではなくて、そこにも横浜らしさが考えられるものもあるのではないかと。そしてまた、光だけでなく、そこにある活動とセットになるということも非常に重要なので、そういうことも工夫の中に入れてもらえないかと。ハレとケというのをもうちょっときちんと再定義をするみたいなことを考えて、このワーディングがいいのかも含めて考えていただきたいというのが今日の意見ではないかと思えます。でも、全体として、こういう形で何らかの方向性を示していくということは、基本的なところを否定されたご意見はなかったと思えますので、この方向でさらに考えていただければと思います。いいでしょうか。</p> <p>(梶山書記)</p> <p>ありがとうございました。本日の審議の詳細な内容につきましては、議事録の確認をもって審議内容の確認とさせていただきますが、いかがでしょうか。</p> <p>(異議なし)</p> <p>(梶山書記)</p> <p>なお、本日の議事録については、横浜市の保有する情報の公開に関する条例に基づき、審議会の議事録についてあらかじめ指定した者の確認を得た上でそれを閲覧に供することとなっておりますので、議事録は部会長の確認を得ることとさせていただきます。</p> <p>(西村部会長)</p> <p>それでは、次回の検討部会の開催について、事務局から説明をお願いしたいと思います。</p> <p>(梶山書記)</p> <p>次回についてはまた日程を別途調整させていただきたいと思っていますので、よろしく願いいたします。</p> <p>それでは、これもちまして第22回横浜市都市美対策審議会政策検討部会を閉会したいと思います。熱心な議論をありがとうございました。</p> <p>閉会</p> |
| 資 料  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・次第、参加者名簿、座席表</li> <li>・資料1：夜間景観のあり方検討について（審議）</li> <li>・資料2：創造的イルミネーション事業 令和2年度の実験イベントについて（報告）</li> </ul>  |
| 特記事項 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・本日の議事録については、部会長が確認する。</li> <li>・次回の部会は、別途日程調整の上、開催。</li> </ul>   |